

衽 (おくみ)

第五十二話 平成三十一年一月五日

切腹の際の死装束 {しにしょうぞく} は衽を左前合わせする。

衽とは <http://ur0.biz/0ZkX>

着ている者の左衽が下に、右衽が重なり上に。

通常は右前合わせ。右手がすっと懐に入れられる。

衽下 {おくみさがり} とは、前身頃まえみごろの肩から衽先までの間。

衽先 {おくみさき} とは、衽の上端、すなわち襟と身頃との間にはさまって斜めにとがったところ。剣先とも云う。

衽先のように斜めになった形を衽形 {おくみなり} と云う。

その昔、『あたらしい武士道』（兵頭二十八：著）をプロデュースしたとき、表紙サンプルが送られてきた。椅子から転げ落ちそうになった。

刀を右腰に差している。衽は左前合わせ。

若輩のイラストレーター、武士姿の写真を見て描いた。若輩の編集者も気づか無かった。「隔世の感」とはこのことだった。

幕末の旗本、川路聖謨 {かわじ-としあきら}。下田で日露和親条約に調印の任を果たす。その折、死を覚悟し、衽を左前合わせした死装束だったとの逸話が残る。

が、事実是这样だ。

ロシアの肖像画家は、川路の写真を見て模写した。写真の左右逆を模写した。

下田の人たちは、川路が死を覚悟で臨んだからだと疑問を抱かなかった。ロシア側は川路の人柄に大変魅せられたという逸話が残る。

江戸総攻撃と決まったその日、江戸城の落城に殉じて自決。享年六十八。

廁 {かわや} に入り、居間で妻に白湯を所望し、妻が居間をはずした隙に拳銃でこめかみを撃つ。着物の下は死装束。腹には白い晒しを巻いていた。腹は横

一文字に切ってあった。

前日、勝海舟と西郷隆盛の会談で中止になっていたことは知らなかった。その報を聞いたとしても川路、自決していたのではなかったか。

山田風太郎『人間臨終図巻』。「川路は要職を歴任したとはいうものの、別に閣老に列したわけでもなく、かつ生涯柔軟諧謔の性格を失わなかったのに、みごとに幕府と武士道に殉じたのである。徳川武士の最後の花ともいうべき凄絶な死に方であった。」